「食の安全に関するリスクコミュニケーションの改善に向けて(案)」

新旧対照表

修正箇所	新	IB	修正理由
(新の頁)	(10月23日)	(8月4日)	
p.18	リスク評価機関とリスク管理機		国民から
30 行目	関の連携はもとより、行政、消費	行政、消費者、事業者、生産者	の御意
	者、事業者、生産者など食の安全	など食の安全に関わるすべて	見・情報の
	に関わるすべての関係者が正し	の関係者が正しくリスクを認	募集にお
	くリスクを認知して、他の関係者	知して、他の関係者の立場、考	いて、御意
	の立場、考え方を理解し、今後の	え方を理解し、今後の進むべき	見をいた
	進むべき方向について考えるこ	方向について考えることがで	だいたこ
	とができるようにしていくこと	きるようにしていくことを目	とによる。
	を目指す。このため、現行のリス	指す。このため、現行のリスク	
	クコミュニケーションを改善す	コミュニケーションを改善す	
	るための目標として、以下を掲げ	るための目標として、以下を掲	
	ることとする。	げることとする。	
p.21	(2)審議の経過に関する透明性	(2)審議の経過に関する情報	国民から
34 行目	<u>の確保と</u> 情報提供のあり方	提供のあり方	の 御 意
			見・情報の
35 行目	<u>リスク評価機関における透明</u>		募集にお
	性・独立性の確保の観点を踏ま		いて、御意
	え、審議と詳細な議事録を公開す	審議と詳細な議事録を公開す	見をいた
	ることと、審議の要約を公開する	ることと、審議の要約を公開す	だいたこ
	ことのメリットと、デメリット及	ることのメリットと、デメリッ	とによる。
	び、審議を公開しない場合のデメ	ト及び、審議を公開しない場合	
	リットや、これらによる人々の信	のデメリットや、これらによる	
	頼性確保への影響を考慮し、効果	人々の信頼性確保への影響を	
	的な審議、議論を行う方法につい	考慮し、効果的な審議、議論を	
	ても、今後検討していく必要があ	行う方法についても、今後検討	
	る。	していく必要がある。	

注:上記以外に文言の統一を実施。